

# 令和4年度上半期 地域経済景況調査報告書

大東商工会議所  
大 東 市

- 目 的  
地域経済の景況を把握するため、市内事業所を対象に景況調査を半期毎に年2回実施する。  
調査概要は以下の通り。
- 方 法  
往復はがきによるアンケート方式、窓口等でも依頼・回収
- 調査期間  
令和4年4月～令和4年9月
- 対 象  
市内の1,482事業所
- 回答状況  
回答事業所 278社（令和4年11月4日現在）

(業種)			
非製造業	製造業	94社	33.8%
	建設業	38社	13.7%
	卸売業	26社	9.4%
	小売業	37社	13.3%
	飲食業	19社	6.8%
	サービス業	64社	23.0%
	非製造業計	184社	66.2%
合 計		278社	100.0%

(従業員規模)		
0～5人	151社	54.3%
6～20人	65社	23.4%
21～50人	29社	10.4%
51～100人	14社	5.0%
101人以上	19社	6.8%
合計	278社	100.0%

※四捨五入により合計が100.0%にならない場合がある

- 調査データ  
調査の結果を示す指標としてDI指数を採用した。DI指数とは、Diffusion Index(景気動向指数)の略で、各調査項目について「増加」・「好転」した等とする企業割合から「減少」・「悪化」した等とする企業割合を差し引いた数値である。即ち、プラスは上昇・増加・黒字基調等の企業割合が上回り、マイナスは下降・減少・赤字基調等の企業割合が上回ったことを示す。

## 【全国の景況】

- 景気は、緩やかに持ち直している。
- ・個人消費は、緩やかに持ち直している。
  - ・設備投資は、持ち直している。
  - ・輸出は、おおむね横ばいとなっている。
  - ・生産は、持ち直しの動きがみられる。
  - ・企業収益は、一部に弱さがみられるものの、総じてみれば改善している。
  - 企業の業況判断は、持ち直しの動きに足踏みがみられる。
  - ・雇用情勢は、持ち直している。
  - ・消費者物価は、上昇している。

先行きについては、ウィズコロナの新たな段階への移行が進められる中、各種政策の効果もあって、景気が持ち直していくことが期待される。ただし、世界的な金融引締め等が続く中、海外景気の下振れが我が国の景気を下押しするリスクとなっている。また、物価上昇、供給面での制約、金融資本市場の変動等の影響に十分注意する必要がある。

\* 内閣府発表 月例経済報告(令和4年10月)による

## 【大東市の概要】

前回調査(令和3年度下半期)から、「製・商品単価」が上昇したが、「原材料価格」の高騰がそれ以上に顕著で、「採算状況」など全体的に製造業はやや改善、非製造業はやや悪化の傾向が数多くみられた。業種別では、飲食業は設備投資を増加させた一方で、売上・採算・資金繰りなど厳しい指標が目立った。その他、「インボイス制度への理解」などに関する特別調査を行ったところ、「少しだけ理解している」「ほぼ理解できていない」との回答が半数近く(49%)あがり、継続した情報提供の重要性が感じられた。

	出荷・売上高	製・商品単価	原材料価格	営業利益	採算状況	資金繰り	雇用状況	設備投資	来期の業況見通し
製造業									
非製造業									

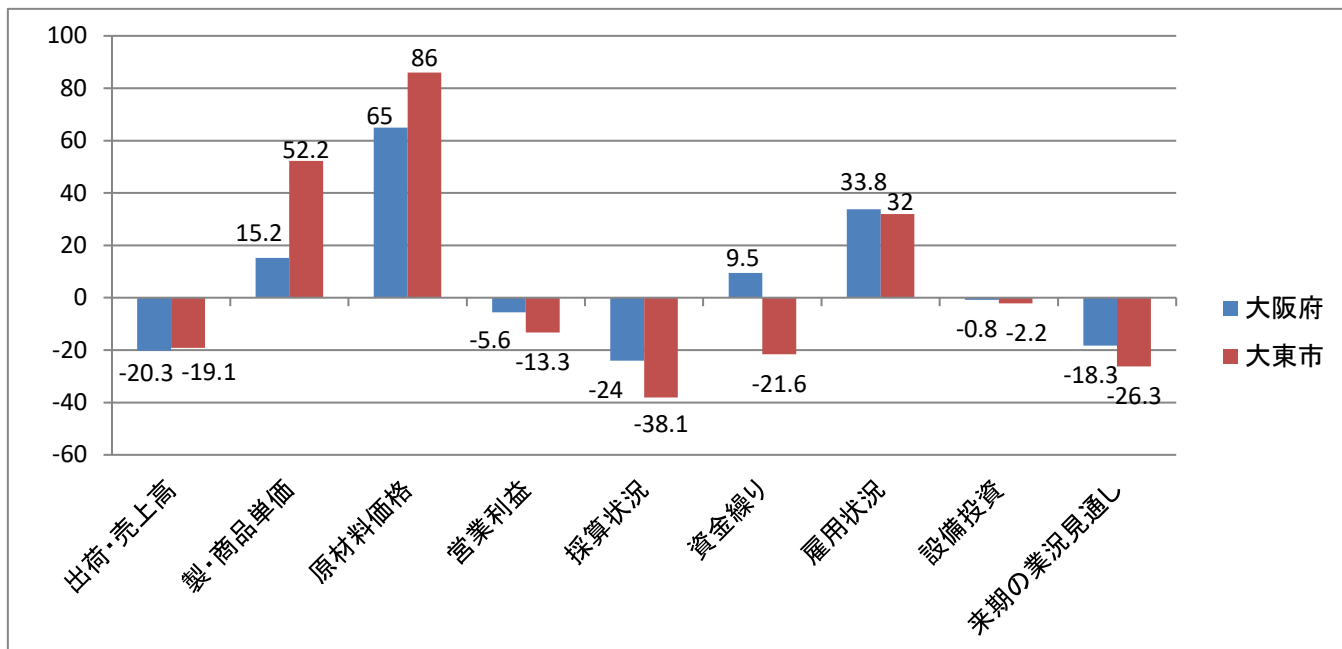
DI値: ... 5以上 ... -5~5未満 ... -15~-5未満 ... -25~-15未満 ... -25未満

\* 原材料価格及び雇用状況に関しては、数値を反転して評価する。

## 【大東市内企業の景況及び大阪府との比較】

### DIのまとめ（大阪府との比較）

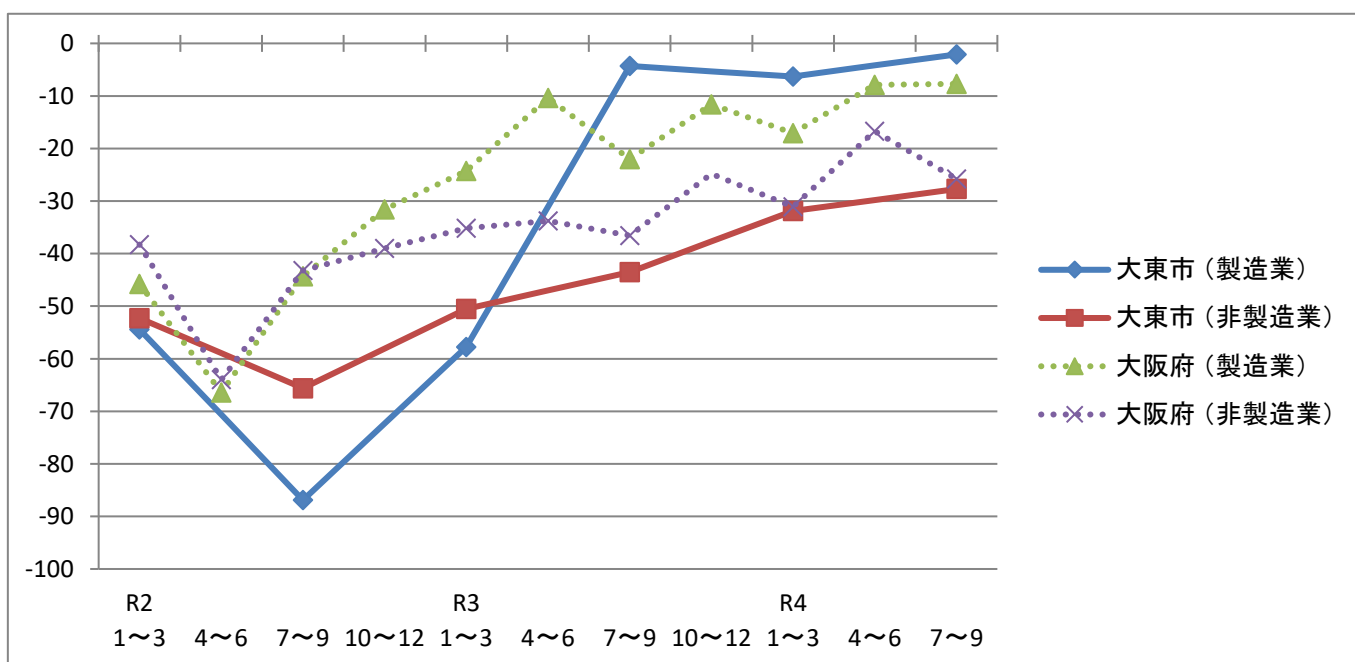
大阪府の指標との比較では、大東市内企業は「出荷・売上高」「製・商品単価」「雇用状況(雇用不足感)」の項目で上回ったものの、他の項目は大阪府の指標よりも低位であった。特に、「原材料価格」「採算状況」「資金繰り」の項目では、大阪府の指標と比較して10ポイント以上も厳しい結果となった。



\* 原材料価格及び雇用状況に関しては、数値を反転して評価する。

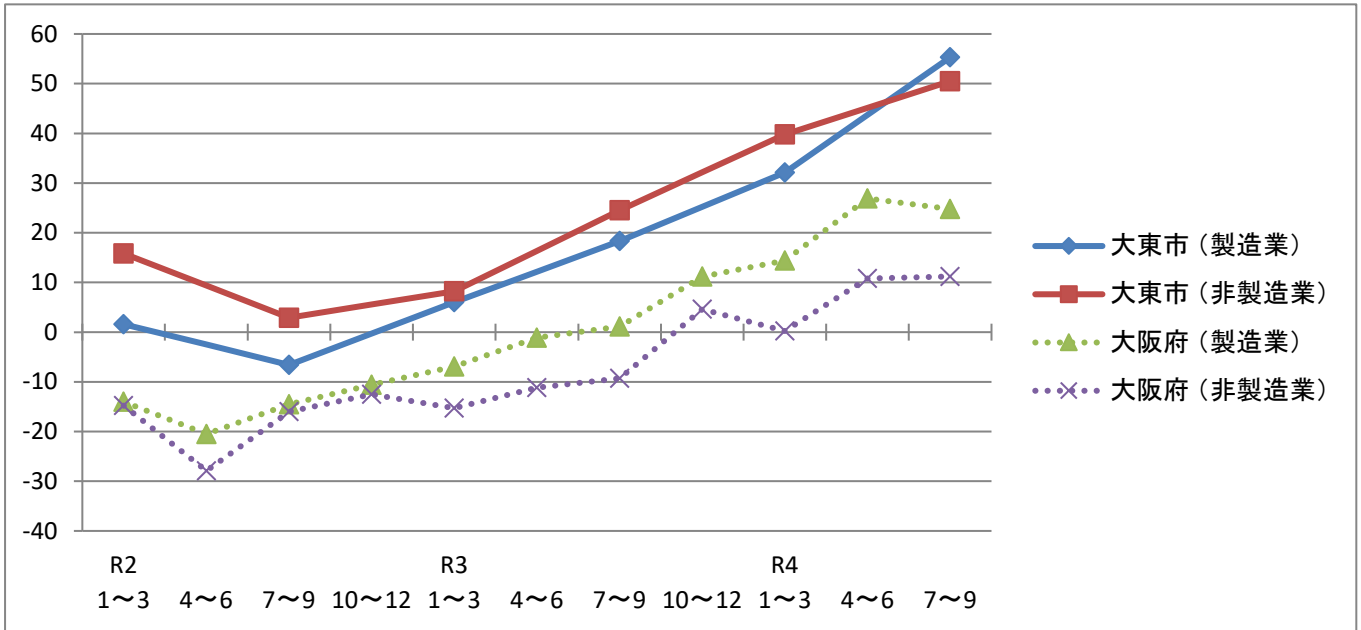
### ○出荷・売上高

出荷・売上高DI(「増加」-「減少」企業割合)⇒ 製造業:-2.1% 非製造業:-27.7%  
 前回調査結果(製造業:-6.3%、非製造業:-31.9%)から、製造業・非製造業ともにやや改善した。  
 直近の大阪府データ(製造業:-7.7%、非製造業:-25.8%)との比較では、製造業では5.6ポイント上回り  
 非製造業では1.9ポイント下回った。大東市内では、特に飲食業(-63.2%)が引き続き厳しい結果となった。



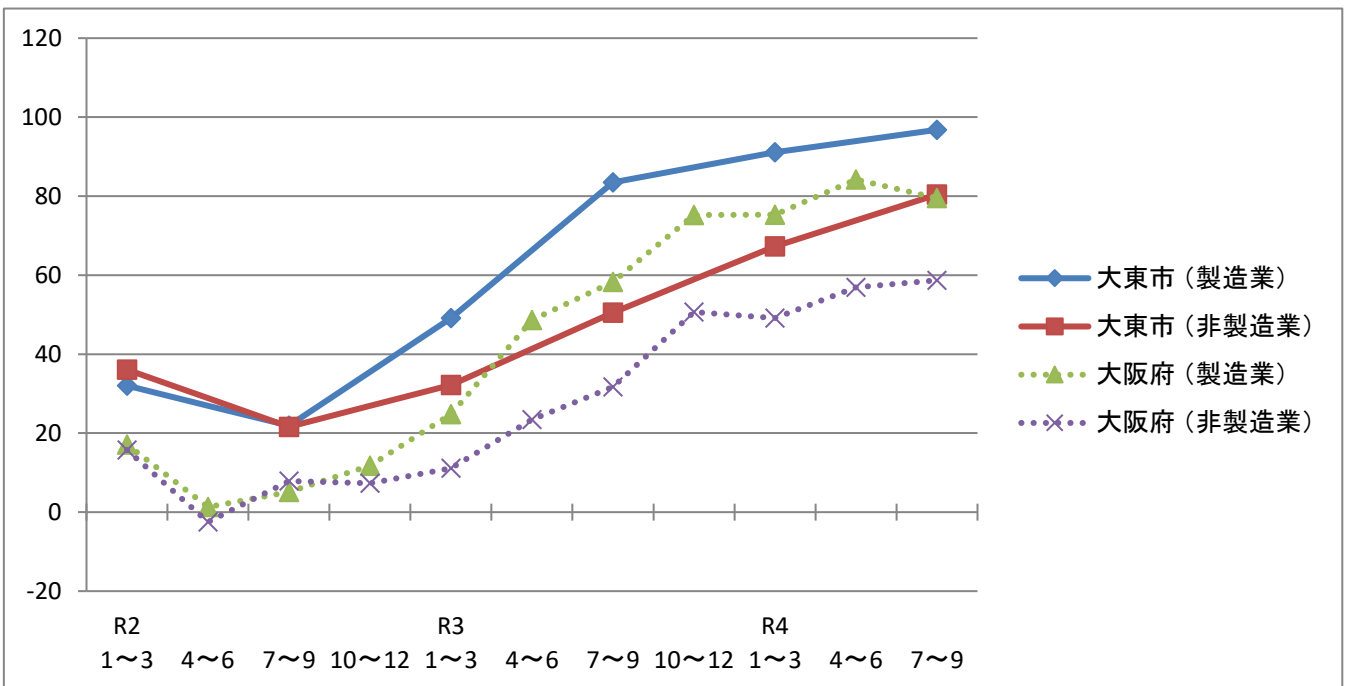
### ○製・商品、サービス等の単価

製・商品、サービス等の単価DI(「値上り」-「値下り」企業割合)⇒ 製造業:55.3% 非製造業:50.5%  
 前回調査結果(製造業:32.1%、非製造業:39.8%)から、製造業・非製造業ともに上昇した。  
 直近の大阪府データ(製造業:24.8%、非製造業:11.2%)との比較でも、製造業・非製造業ともに今回も上回る結果となった。大東市内においては、特に小売業(64.9%)の単価のプラス水準が高くなった一方、サービス業(40.6%)におけるプラス水準は全業種の中で最も低位であった。



### ○原材料・部品等の仕入価格

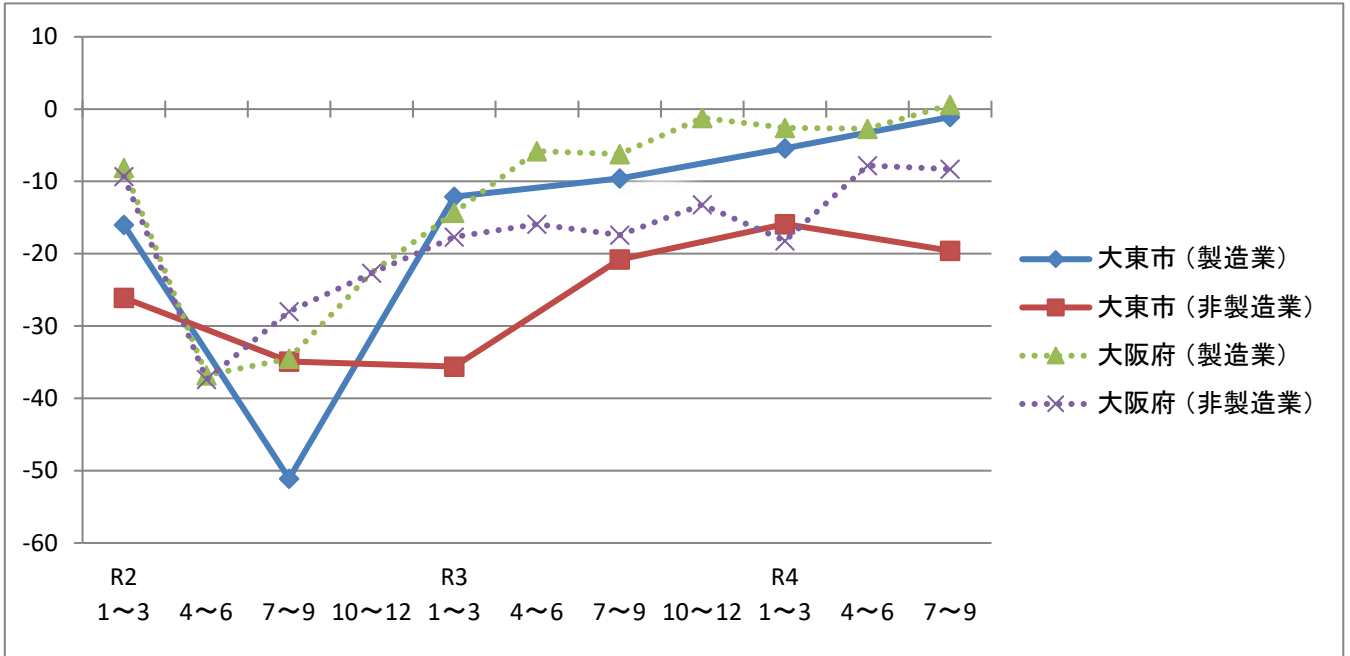
原材料・部品等の仕入価格DI(「値上り」-「値下り」企業割合)⇒ 製造業:96.8% 非製造業:80.4%  
 前回調査結果(製造業:91.1%、非製造業:67.3%)から、製造業・非製造業ともに上昇した。  
 また、直近の大阪府データ(製造業:79.5%、非製造業:58.7%)との比較では、製造業は17.3ポイント、非製造業は21.7ポイントのプラスと、多くの市内企業が仕入価格の一層の値上がり基調に苦慮している現状が窺える。今回、市内では建設業、卸売業、飲食業での仕入価格の値下がり回答は0件であった。



## ○営業利益

営業利益DI(「黒字」-「赤字」企業割合)⇒ 製造業:-1.1% 非製造業:-19.6%

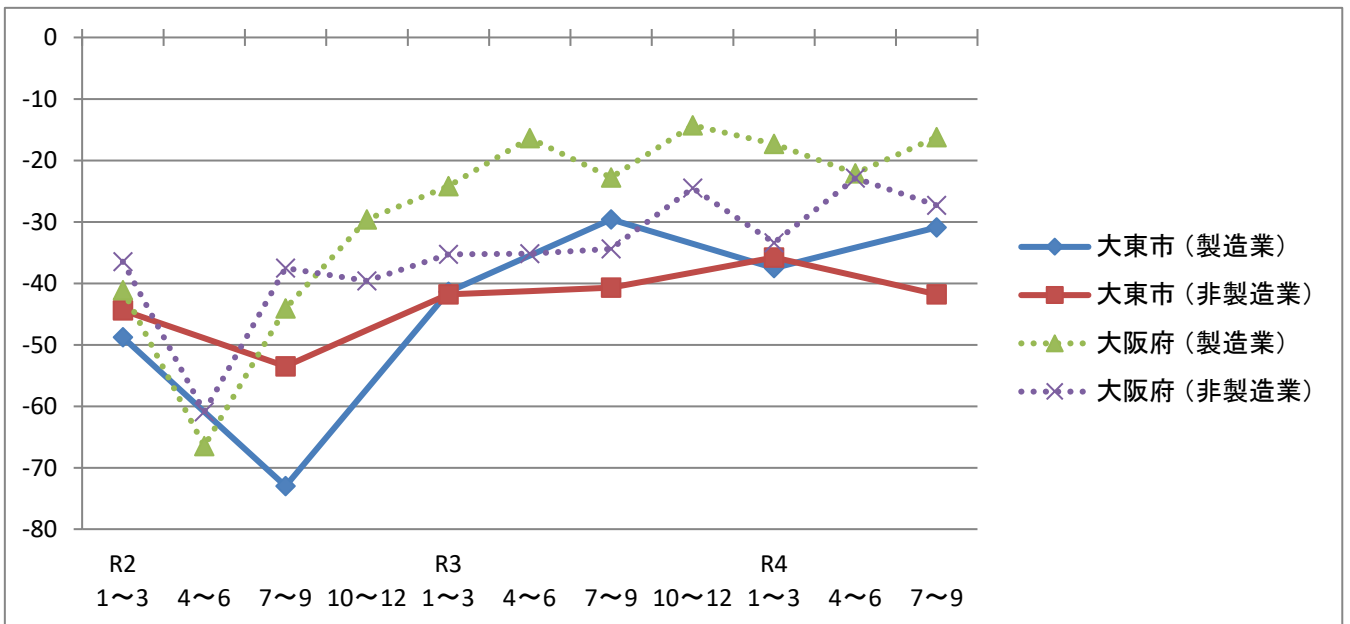
前回調査結果(製造業:-5.4%、非製造業:-15.9%)から、製造業はやや改善、非製造業は悪化した。また、直近の大阪府データ(製造業:0.6%、非製造業:-8.3%)との比較では、製造業は1.7ポイント、非製造業は11.3ポイント下回る結果となった。大東市内では、前回同様、引き続き飲食業(-73.7%)の厳しさが際立ち、卸売業(7.7%)のみが黒字基調を示した。



## ○採算状況

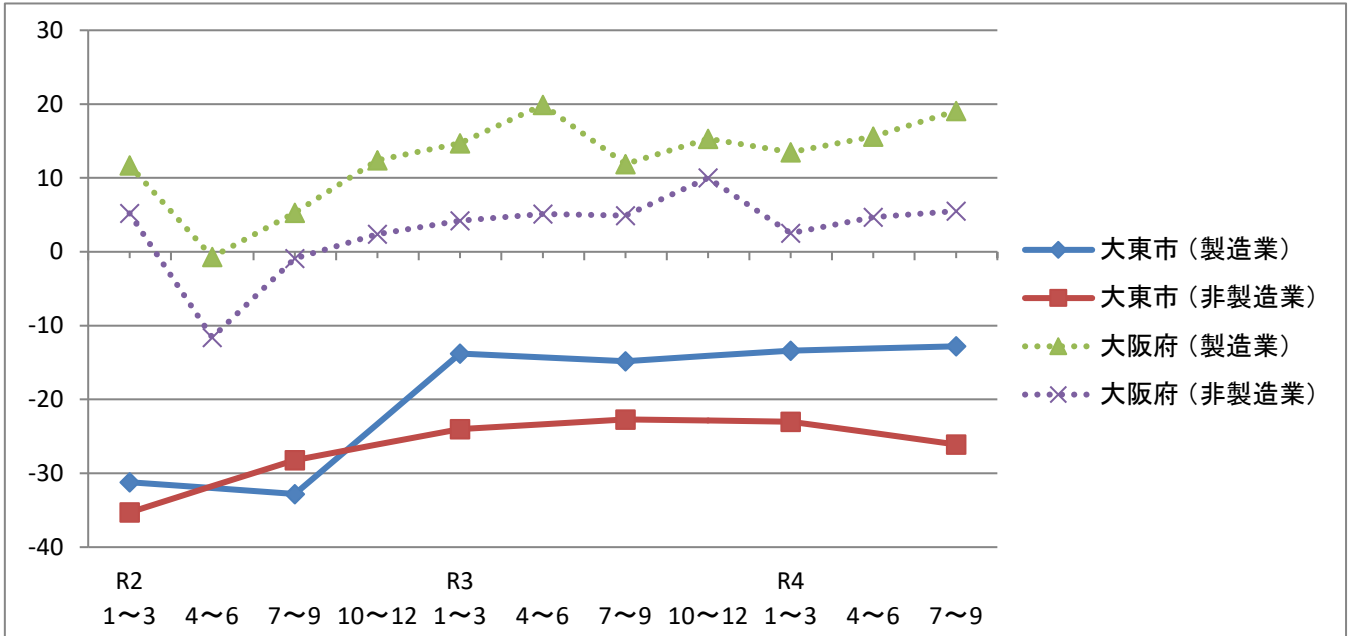
採算状況DI(「良くなった」-「悪くなった」企業割合)⇒ 製造業:-30.9% 非製造業:-41.8%

前回調査結果(製造業:-37.5%、非製造業:-35.8%)から、製造業は改善、非製造業は悪化した。また、直近の大阪府データ(製造業:-16.2%、非製造業:-27.3%)との比較では、製造業は14.7ポイント、非製造業は14.5ポイントそれぞれ下回った。採算状況の調査では、市内の飲食業(-78.9%)、小売業(-62.2%)の悪化が特に目立った。



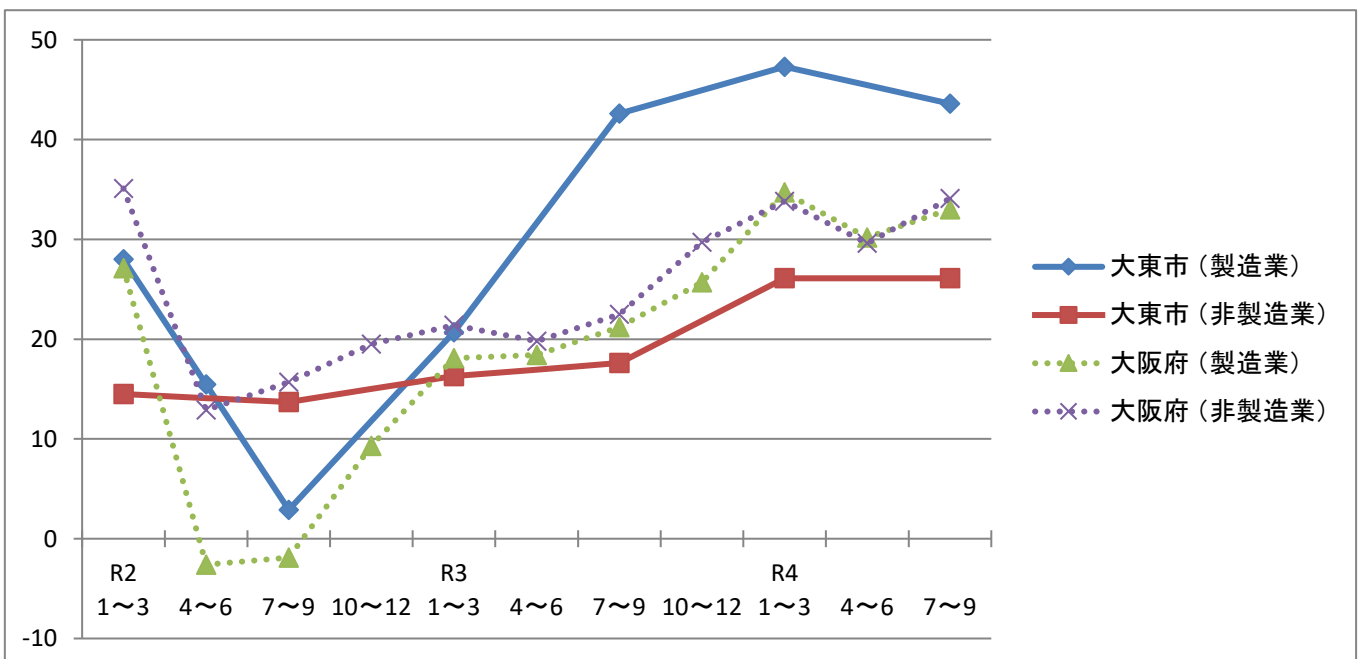
## ○資金繰り

資金繰りDI(「良くなった」-「悪くなった」企業割合)⇒ 製造業:-12.8% 非製造業:-26.1%  
 前回調査結果(製造業:-13.4%、非製造業:-23.0%)から、製造業は僅かに良化、非製造業はやや悪化した。また、直近の大阪府データ(製造業:19.1%、非製造業:5.5%)との比較では、製造業が31.9ポイント、非製造業が31.6ポイント下回った。業種別では、今回も飲食業(-63.2%)が最も厳しい結果となり、前回の数値(-33.3%)から30ポイント近く悪化した。資金繰りの項目が大阪府との差が最も顕著であることについて、今回も変わりはない。



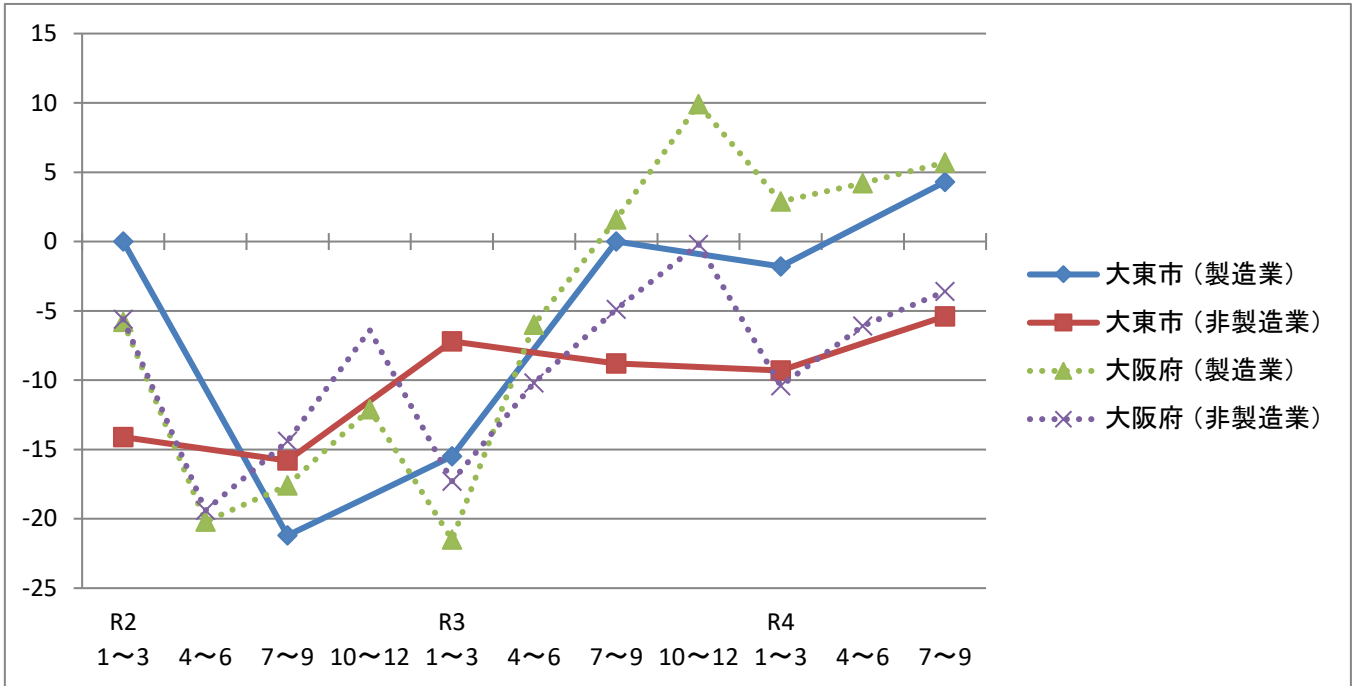
## ○雇用状況(雇用不足感)

雇用状況DI(「不足」-「過剰」企業割合)⇒ 製造業:43.6% 非製造業:26.1%  
 前回調査結果(製造業:47.3%、非製造業:26.1%)から、製造業は雇用不足感がやや一服、非製造業は横ばいの数値となった。また、直近の大阪府データ(製造業:33.0%、非製造業:34.1%)との比較では製造業は10.6ポイント上回り、非製造業は8ポイント下回った。大東市内では、製造業の次に建設業(39.5%)、サービス業(31.3%)における人手不足感が顕著にあらわれた結果となった。



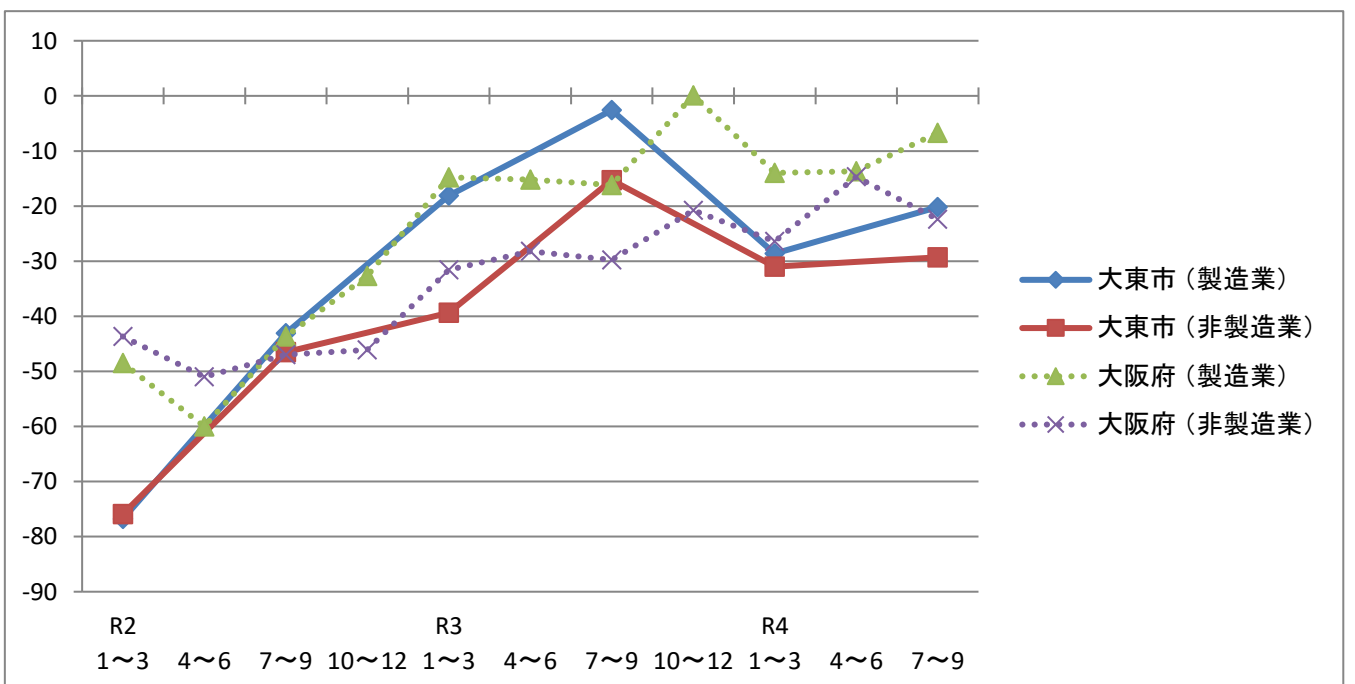
## ○設備投資

設備投資DI(「増加した」-「減少した」企業割合)⇒ 製造業:4.3% 非製造業:-5.4%  
 前回調査結果(製造業:-1.8%、非製造業:-9.3%)から、製造業・非製造業ともに増加した。  
 また、直近の大阪府データ(製造業:5.7%、非製造業:-3.6%)との比較では、製造業は1.4ポイント、  
 非製造業は1.8ポイント下回った。市内では、飲食業(15.8%)において最も増加傾向がみられた。

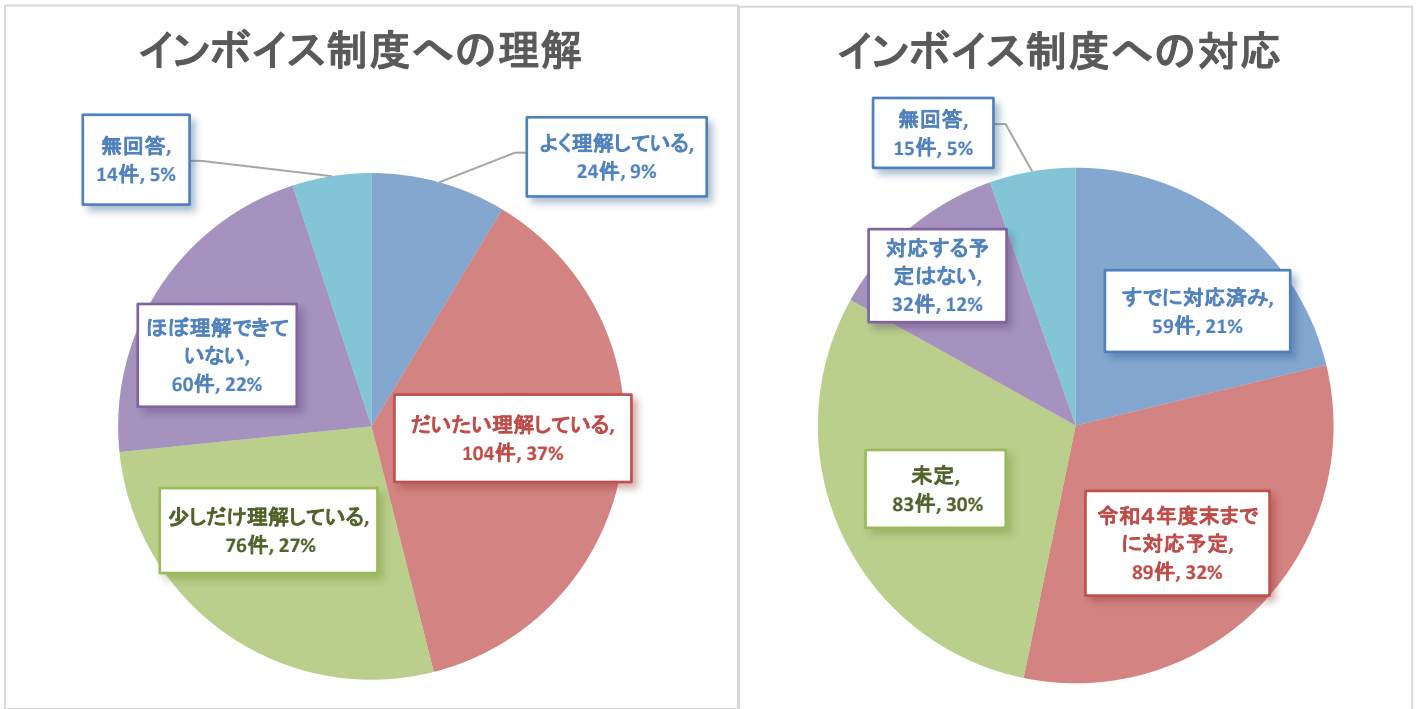


## ○来期の業況見通し

来期の業況見通しDI(「良くなる」-「悪くなる」企業割合)⇒ 製造業:-20.2% 非製造業:-29.3%  
 前回調査結果(製造業:-28.6%、非製造業:-31.0%)から、製造業は持ち直し、非製造業でも僅かに改善の動きがみられた。また、直近の大阪府データ(製造業:-6.7%、非製造業:-22.4%)との比較では、製造業は13.5ポイント、非製造業は6.9ポイント下回る結果で、府の指標より厳しい来期の業況見通しが示された。

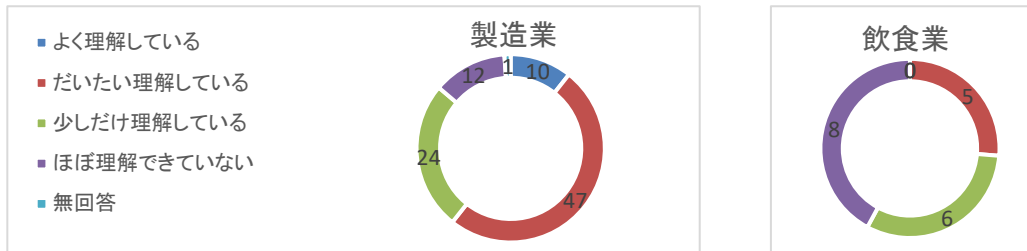


◀ 特別調査項目 ▶



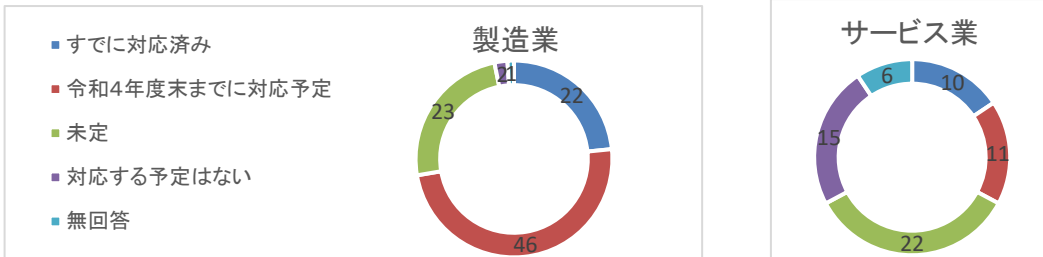
○ インボイス制度への理解

インボイス制度を「よく理解している」「だいたい理解している」との回答が多かったのは、製造業(61%)。反対に、「少しだけ理解している」「ほぼ理解できていない」との回答が多かったのは、飲食業(74%)。



○ インボイス制度への対応

インボイス制度に「対応済み」「令和4年度末までに対応予定」との回答が多かったのは、製造業(72%)。インボイス制度への対応は「未定」「対応する予定はない」との回答が多かったのは、サービス業(58%)。



産業分類	従業員数	自由意見
オフセット印刷業	D	コロナのせいで昔のような活動ができず、会員企業のつながりが薄くなっている。
表面処理鋼材製造業	C	人材不足、原材料高騰、人件費が課題。
表面処理鋼材製造業	C	コスト上昇を加工費に転嫁できるようエンドユーザーに促してもらいたい(市→国) 人材確保が厳しさを増しており、一層の支援を願いたい。

\* 従業員数 A…0～5人 B…6～20人 C…21～50人 D…51～100人 E…101人以上

産業分類	従業員数	自由意見
電気機械器具製造業	B	インボイス制度は、会計士さんを通じて登録番号申請中です。
電気配線工事業	A	上半期は前年対比としては上々でしたが、下半期に売上低迷に至る。年末にかけて資金繰りが大変になると予想しています。
貨物運送取扱業	E	コロナ禍で取り戻せなくなった生活スタイルが、現在オンラインやネットの成長により新しいスタイルが増えてきました。急成長に残されない為にも様々な状況に合わせた講習の提供を今後ともお願いいたします。
化学製品卸売業	A	原油価格の上昇による値上げが、めどが立たず、毎月値上げ交渉している。仕入れも安定しない状況なので、来年は改善してほしい。
室内装飾繊維品卸売業	A	経営者でもあるが、大東市の一市民としてキャッチーな催物、演出にお金をかけすぎです。他の都市と比べ、一例として道路表示、標識、横断歩道の整備等ベーシックな対策急務です。未来を担う子供たちの安全のため。
婦人服小売業	A	業界はリストラ・契約条件変更等とても厳しくなっている。需要の低下がますます進んでいる。
酒小売業	B	インボイスや電子帳票保存法対応等、新しい設備投資をする余力がない。業務用ソフトウェアの値段の高さがつらい。
酒小売業	A	昨年度のコロナ禍に比べて上昇してはいますが、その前に比べるとまだまだ戻っていません。
米穀類小売業	A	原材料の値上げ、経費も高くなり、販売価格も上げられない厳しい状況です。インボイスのセミナーを開いて頂いてよかったです。
金物小売業	A	成長産業の誘致や小規模事業所のDXの手助け等を希望。
時計・眼鏡・光学機械小売業	A	まだまだコロナ禍なのに、規制緩和の動きは早すぎると思います。
たばこ小売業	A	たばこ小売は社会的に見て減少傾向で、先行きが暗い。
駐車場業	A	家やリフォームは値上がりした。家賃は横ばい。
駐車場業	A	非正規職員を少なくしてあげてください。子供支援をしてあげてください。長期のコロナ対策をお願いします。
税理士事務所	B	コロナ融資の返済ができない企業の連鎖倒産を危惧しています。
中華料理店	A	国は個人店舗を無視して企業型店舗に一掃しようとしています！インボイス、電子決済の導入、人件費の高騰など露骨な個人店潰しに対する対応など、これから更に相当無駄な労力を使うことになるだろう。
酒場, ビヤホール	A	マスクを取って外に出ることを推進して頂き、飲食業を盛り上げるイベント企画を希望します。また商工会議所をはじめ市役所職員も外食に出て頂きたい。コロナで家飲みが定着しているのでお願いしたいです。
理容業	A	国民年金での生活は大変です。働くことができなくなるという不安もあります。

\* 従業員数 A…0～5人 B…6～20人 C…21～50人 D…51～100人 E…101人以上